

令和8年度 第1回住吉区地域福祉専門会議 会議要旨

1 日時 令和8年6月4日(木) 午後6時から午後7時55分

2 場所 住吉区役所 4階 第4・5会議室

3 出席者

(委員)

宮川委員、相良委員、實宗委員、多賀谷委員、殿井委員、藤居委員、松岡委員、三橋委員、
山野委員

小野アドバイザー

(区役所他)

区長、副区長、関係課長、課長代理、担当係長

住吉区社会福祉協議会 事務局長、地域支援担当係長

4 議題

【報告】

(1) これまでの取り組みと見えてきた課題について

(2) 地域見守り支援システム進捗状況について

(3) 地域福祉活動に関するアンケート結果について

(4) 地域座談会の実施結果について

【議事】

『住吉区地域福祉ビジョン Ver. 4.0』素案について

【その他】

令和8年度の開催日程について(予定)

5 議事要旨等

【報告】

(1) これまでの取り組みと見えてきた課題について

・別添資料1のとおり

(2) 地域見守り支援システム進捗状況について

・別添資料2のとおり

・報告は年1回となったため、集計は3月31日現在で統一

・見守り相談室、地域課、福祉課が地域支援事務所を訪問して、現状把握と連携強化を進める。

(3) 地域福祉活動に関するアンケート結果について

・別添資料3のとおり

・活動者の属性には偏りがあり、長期従事者への依存が強い。

- ・参加のきっかけは、社会貢献への関心と友人・知人の誘いが強く作用しているほかに、人との関わりを持ちたいという動機がある。
 - ・活動には喜びや充実感があり、活動者自身の心身の健康に良い影響を与えている。
- (4) 地域座談会の実施結果について
- ・別添資料4のとおり
 - ・増進型福祉の考え方として「幸福（しあわせ）探し、幸福（しあわせ）づくり」を導入に、地域座談会・住民交流会の開催支援を実施。
 - ・山之内地域は年1回の定期開催が定着しイベントやネットワーク拡大につながり、長居地域は座談会を契機に地域広報紙が誕生。
 - ・住吉地域は27町会の広域性から平場で話す機会として有意義で継続意向が示された。
 - ・南住吉地域は町会女性部、民生委員、保護司、青少年指導員、PTA、老人クラブ、専門職（見守りのCSW、包括職員等）が対話しワークショップを取り入れる点が特徴。
 - ・清水丘は高齢者中心の話題から世代間のつながりへ展開し子ども食堂メンバー参加もあった。
 - ・苅田南はPTA参加が続き、現役世代の地域参加のチャンネルづくりを模索。
 - ・東粉浜は座談会からハロウィンイベント（今年で4回目）が定着。
 - ・テーマ型座談会（見守り活動等）も試行。未実施の地域1地域と、コロナ禍前は実施していたが再開できていない地域1地域には踏み込んだ支援を行う方針。

【報告についての意見】

- ・地域福祉は縦割りではなく、包括的支援と場づくりが重要と指摘。アンケートは地域別の回答ばらつきやクロス集計（年齢×きっかけ等）で分析深化の余地がある。地域座談会の成果を区民により周知する工夫が必要。（小野アドバイザー）
- ・高齢者や男性が参加する場をたくさん作ることが大切。（委員）

【議事 『住吉区地域福祉ビジョン Ver. 4.0』 素案について】

事務局より

- ・別添資料6のとおり。
- ・現行ビジョン Ver. 3.0 の基本理念と基本目標を継承しつつ、各会議体や小委員会での意見を踏まえて作成。
- ・資料の構成は、上段に Ver. 3.0 を、下段に Ver. 4.0 を掲載。変更箇所は朱書き部分。
- ・基本目標1、2それぞれの4つのスローガンごとに「現状と課題」「これからの目標」を記載し、資料1の課題番号を対応づけて可視化（パブリックコメント段階では課題番号は削除予定）。
- ・各スローガンをひとことと言うと、基本目標1の①は『きっかけづくり』、②は『集う場づくり』、③は『役割づくり』、④は『情報発信』。基本目標2の①は『個人の権利を守る』、②は『気づきと共有』、③は『支援のネットワークづくり』、④は『支援者同士の連携』。

主な意見

- ・民生委員や見守り等、善意のボランティアに依存しており後継者がいない。「やる気だけに頼る」形では継続が難しい。
- ・「楽しく」関わることが重要で、重くなると参加が難しい。
- ・年齢・障がい・国籍等に関係なく参加できる場、共に対話し共に過ごせる場が重要である。地域座談会がそういった場として活用できる。
- ・社会福祉施設連絡会（66施設加入）で参加不参加に温度差がある。地域に職場を通じてかかわっているが、どのように地域貢献するのか、どのように交流するのか等をテーマに、講義とワークショップを開催予定。
- ・支援上、どこまで情報共有できるかは常に課題であり、「一緒に考える」ことを目標に入れる意義はあるが難しさもある。
- ・福祉課題の複雑化で支援が長期間に及ぶことが多く、支援者側のケアや支援者が話し合える場が必要である。
- ・認知症高齢者の金銭管理は制度利用の問題だけでなく、後見決定までの間に現場（ケアマネ事業所・ヘルパー等）がリスクを負っている実態があり、課題文の前半・後半に乖離があるのではないかと。
- ・子どもに関する課題の見え方（基本目標1では少なく、基本目標2では一定カバー）について、仕組みづくりでは子どもに関してよく取り組まれているが、まちづくりの部分では、子どもについての取り組みが少ない。

小野アドバイザーより

- ・地域福祉計画は行政計画である一方、住民参加・地域参加が不可欠で、「自分たちの計画・ビジョン」にしていく姿勢が重要。
- ・「市と区が同じ方向を向かいつつ…」の表現は「市が言うことを区がやる」と読める可能性がある。
- ・「現状と課題→これからの目標」となっているが、ビジョンとして「これからの姿」をより前面に出す工夫が必要。
- ・スローガンが「文学的」で分かりにくく、「一言で言うと」の説明のように読者に伝わる表現への工夫が必要。

【その他】

令和8年度の開催日程について

- ・第2回 令和8年10月22日（木） 午後6時から
- ・第3回 令和9年2月18日（木） 午後6時から